

薬剤師のがん薬物療法への関わり

＜安全と安心の追求＞

薬 局

－ がん 薬 物 療 法 の 流 れ －



【1】レジメン登録

レジメンとは、抗がん剤の特性に合わせて輸液、支持療法薬(制吐剤など)や投与量、投与速度、投与順序、休薬期間などを時系列的に示した治療計画のことです。

レジメンは医師、看護師、薬剤師、栄養士で構成された「化学療法委員会」にて科学的な根拠、有効性、安全性などを検討して採用します。採用されたレジメンは薬剤師が電子カルテに登録します。当院でのがん薬物療法は登録されたレジメンに従って行われており、それ以外の治療はできません。

【2】治療決定

カンファレンス（症例検討会）に薬剤師も参加し、治療決定の際の情報提供などを行います。

【3】処方確認

薬剤師は医師がオーダーした患者さんの処方が、登録されたレジメンに基づいた内容か、患者さんに合った投与量か、投与速度は適切か、検査値は問題ないか、などを毎回確認します。処方オーダーに疑問点がある場合は必ず医師と連絡を取り、適切に対応しています。



【4】調剤及び監査

処方オーダーに問題がないことを確認できたら、抗がん剤の調剤と監査を行います。「処方確認」「調剤」「監査」の3回にわたり、それぞれ薬剤師が精密にチェックを行います。



【5】お薬説明



ベッドサイドや薬剤師外来にて、薬剤師ががん薬物の作用・副作用および注意点などを説明します。初回以降も副作用の確認を行い医師と協力して安心・安全な治療を目指しています。

【6】薬剤調製

治療当日、医師から治療決定の指示を受けた後、薬剤師は検査結果を調べ、問題ないことを確認してから調製を行います。安全キャビネットと抗がん剤曝露対策閉鎖式システムを用い、調製者と監査者と2人の薬剤師で作業の確認を行いながら厳重にかつ衛生的に混合調製を行います。



【7】薬剤投与

投与に際しても抗がん剤曝露対策閉鎖式システムを使用した安全な投与を行っています。薬剤師は薬剤が問題なく投与されているかを確認するため、病棟や外来化学療法室を訪問しています。

【8】情報提供

患者さんに安全かつ質の高い外来治療を提供するために保険薬局に情報を共有して連携を強化しています。患者さんへは、外来化学療法室での初回投与時、レジメン変更時に薬剤師による説明を行い、お薬説明書をお渡ししています。また、院外の医療機関に向けた治療レジメンシールや情報提供書等を作成し、切れ目のない医療を提供しています。

Page 1/1

実施日	2018年10月(日)	医師
診療科	内科	医師
レジメン	(2-5日目) maintenanceTCBV	
①デキサメトメド	6.6mg/2mL	5mL
②フエボジン	20mg	1錠
③ボラタミン	5mg/mL	1mL
④グラニセロン	3mg/50mL	50mL
⑤アバスタ		830mg
⑥パクリタキセル		270mg
⑦カルボプラチン		850mg

松戸市立総合医療センター 薬局 電話047(712)2511
千葉県松戸市千代田99番地1

＜レジメンシール＞